・国理教育／開発教育を進める上であなたが必要だと思うものは何ですか？選択肢で
・評価はどのようにしていますか？
・国際理解教育を通して育みたい力は何ですか？
・国際理解教育で何を伝えたいですか？
・国際理解教育に取り組んでみて、成果はありましたか？　どのような成果ですか？
・国際理解教育に取り組んでみて、課題（問題）はありましたか？　どのような？

○取り組んでいない人

・国際理解教育に取り組まない理由は何ですか？
・国際理解教育に取り組もうとする時の障害は何ですか？
・自分でも国際理解教育／開発教育を行いたいですか？

課外での国際理解教育の取り組みについて

・課外ではどのような国際理解のための取り組みをしていますか？
→募金と送り先
　支援物資集めと送り先
　ペンフレンド・里親・姉妹校との交流実績
　国際協力団体事務所訪問など

情報入手方法

・そのように教材を作っていますか？　困っていることはありますか？
・国際理解教育／開発教育の情報はどのように入手していますか？

外部協力へのニーズと内容

・外部の協力を得たいと思うのはどんな部分に関してですか？
・学校の授業として外部リソースを利用した事はありますか？
→どんな外部リソースを利用しましたか？
　選択肢：NANGOC,AIA,JICA,NIC,ぼらんぼ、その他ＮＰＯ
→何のカリキュラムの中で利用しましたか？
→外部リソースを活用した経験上、よかった点は？　よくなかった点は？
・外部リソースを活用する時の条件（制約）は何かありますか？

学外との連携

・他団体の協力を得ての研修会・勉強会の実施　　あるならどのような内容で？
・学校と地元の自治体・国際協力／交流団体・ＮＰＯとの協力関係はありますか？

効果／成果／期待／必要性について

・国際理解教育／開発教育を学校で取り組む事は必要だと思いますか？　はい／いいえ
→またそれはなぜですか？
・環境、人権、平和、途上国をめぐる問題等を生徒に教える必要性を感じますか？
→またそれはなぜですか？
・国際理解教育／開発教育を進める事で得られる効果は何があると思いますか？
→取り組む事でどのような力が児童／生徒に身につくと思いますか？
・現在の社会が抱える課題はどんなことがあると思いますか？
→どのような社会になるといいと考えますか？

総合学習に関して

・総合学習でこれまでに扱ったテーマは何ですか？（例：環境／福祉／情報／文化理解）
・総合学習のテーマとして国際理解教育／開発教育のプライオリティは？
・今後総合学習で国際理解教育を導入する希望、または予定はありますか？
・総合学習に関わる予算はどれくらいですか？
・総合学習にかける時間は何時間ですか？
・総合学習の学習形態は？（人数、回数、縦割り、合同？　教師主導？生徒主導？）
・総合学習の方法は？　フィールドワーク／調べ学習／ワークショップなどなど
・総合学習のテーマ（学校／学年などで）はどのような方法で決まりますか？誰が中心？
・総合学習に対する教員間の温度差は？
・学校の業務の中でもっともあなたが時間をかける（時間がかかる）のは何ですか？
・総合学習／国際理解教育に関わらず、カリキュラム編成はどうやっているか？
→カリキュラム編成に関して問題に感じる点はありますか？
→次年度のカリキュラムはどの時期に決まりますか？
・総合学習に関する人材育成はどのようにしていますか？
・総合学習はそのねらいを達成できていますか？
・総合学習…現場の先生の率直な気持は？
・今後どのような視点で総合学習に取り組みたいですか？
・学校で育てて行きたい「生きる力」とは具体的にどのような力ですか？
→国際理解教育／開発教育はその生きる力を養うのに役立つを思いますか？

研修に関するニーズ

・今までに国際理解教育／開発教育に関する教員研修はありましたか？（校内／学外）
・今までに国際理解教育／開発教育に関する研修に参加したことはありますか？
・国際理解に関する教員研修を希望しますか？
・教員自身／学校自身の「内なる国際化」に関する研修の有無
・毎年この地域で行われている「国際理解教育地域セミナー」の存在を知っていますか？

■ アンケート設問に対する提案の全体でのとりまとめ

（当該教育＝国際理解教育・開発教育）

- 当該教育の認知度とイメージ
- 当該教育に取り組んでいるか？
- 内容・手法は？→カリキュラム（ねらい、内容、教授法、教材、人材）
- 当該教育に取り組まない（めない）理由
- 当該教育の情報の入手方法
- 当該教育の実践に必要なものは？
- 当該教育の効果は何だと思うか？期待？必要性？
- 外部協力へのニーズとその内容
- 当該教育を広げるためのアイディア（学内で）

- 学校の業務で一番時間のかかる事は？
- 学校自体の国際性に関して
- 学校を取り巻く地域社会の国際性

- 総合学習のワク組み（時間、予算、テーマ決め）
- 総合学習の内容は？手法は？
- 総合学習のワクの中での当該教育の実践は？優先順位は？
- 総合学習の取り組みの満足度（提供側、生徒・保護者）

- 教員研修への希望内容
- 教員研修の必要性の認識
- ワークショップへの参加・体験は？

■ 第４回　愛知県における国際理解教育・開発教育ニーズ調査研究会　議事録

◆日時：平成１５年９月１８日（木）午後６時４５分～９時

◆場所：ＮＩＥＤ・国際理解教育センター事務所オープンスペース

◆参加者：（委員）久世、栗木、里村、瀬尾、田中、濱田、山中（欠席者：今津、荻原、野田）＜敬称略＞

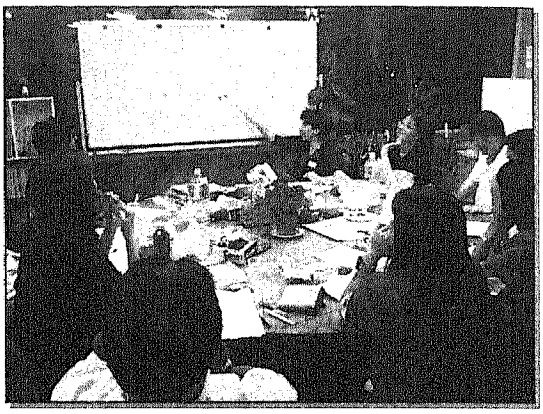
（事務局）礒貝、川合

（オブザーバー）ＪＩＣＡ中部国際センター：賀島

◆配布資料：

(0)レジュメ（議事次第）

(1)第３回のアンケート設問の個別カードのまとめ



▲ 第４回研究会の様子

◆議事の経過と結果の概要

１．本日のねらいの確認

◇座長から本日のねらいについて次のとおり説明した。

・今日は、前回たくさん出されたアンケート設問を絞り込むことと、その他落としていることはないかを考える。

・今日の検討結果を基に、アンケート調査票のたたき台をメーリングリストに流すので確認してほしい。

２．アンケート設問の検討と優先順位付け

・アンケートの分量として、７ページ×４問＝２８問ぐらい（１ページは自由記入欄やフェイスシート）を想定している。前回の研究会で出されたアンケート項目をまとめると、五十数問あるので、そのうち２５問程度に絞り込む作業をした。

・各自、２０分ぐらいで個別カードのまとめを読み込み、是非ともアンケートに盛り込みたい２５問を選ぶことと、追加で聞きたい項目を考える作業を行った。

・各自が絞り込んだ２５問程度を挙手で一項目ずつ確認した。→別紙１ 参照

＜個別カードに対する意見交換＞

・No.9：あなたの身近に→あなた又はあなたの身近に、とした方がよいのでは。

・No.10：開発教育と国際理解教育のイメージを分けて聞く意味はないのでは？

・No.14～16：

・No.28：課外とは授業外という意味か？

→学校の中では…とする？学校単位で何をしているかを聞きたいと思う。

→協力隊ＯＢなど学校外個人でやっている人はどう答えていいかわからない。

→個人のことは聞く必要がないのでは。

→結論：学校全体のことで授業外のことを聞く質問とする。

＜確認＞今回のアンケートは学校全体のことを一担当者が答えるものである。

担当者の考えを聞く設問と学校全体の実態を聞く設問を明確にする必要がある。

・No.39 と 40、No.41 と 42、No.43 と 44 は一緒にする。
・No.51：どの学校でも同じでは？→学校によって幅がある。
・No.62：自由記入欄か。これを聞いてどうするの？
・No.67：研修を知っていますか？という設問も設けたらどうか？

＜総合学習＞
・唐突に総合学習の細かいことを聞く設問の提案があるが、国際理解教育・開発教育ニーズ調査との結びつきはどう考えたらよいか？
→総合学習の中で国際理解教育をテーマにしている学校が多いからではないか？
→荻原さんが総合学習始まってからの初めての調査であることを強調していたので、ＪＩＣＡとしてどうだろうか？
→総合学習で国際理解教育・開発教育が出来ますか？（可能か）という質問を自分は付け加えたが…。
→可能かと聞くよりも、これから導入する予定があるか？と聞くべきでは。
→どの科目で扱っていますか？の中の選択肢に総合学習の時間を入れてうまく入れ込むということもできる。
→総合学習の中のシェアと全教科でのシェアの両方を聞くという考えがある。
・教科の中で外部リソースを使うことはできるか？
→できる。戦争体験を聞くとか…社会科の授業で障害者の人に来てもらうとか。
→高校だと学校による。
→連続として時間はとりにくい。
・総合学習でどんな分野が扱われているか聞きたくないか？
→教育委員会で調査しているのではないか？
・２００３年度版としてリサーチすることは意味があるのでは。
・総合学習で７つ以上選択されているのは、扱っているテーマ、国際理解教育を導入する予定、導入しての率直な気持ちの３つである。
・総合学習のどんな点に難しさを感じているか？という質問にしたら？
→国際理解教育・開発教育では同じような質問をしている。
・No.47 と 48 をくっつけたが、No.47 はデータとしてあるかもしれないが、No.48 は無いのでセットで聞きたい。
・総合学習として取り組んだテーマ？は、なぜ国際理解教育を選んだのか？選ばないのかを知りたいということであれば、どんなテーマを選びましたか？となぜそのテーマが選ばれたのか？を聞けばよいのでは。
・学校の総合学習の取り組みは様々で、毎年違う所、学年毎で違う所、数年単位で決める所、学級単位で決める所、グループ毎に決めるがあることをわかって聞く必要がある。
・「環境」のテーマが圧倒的に多い。それは取り扱い易いからで、プライオリティを聞くことに意味はある？
・全体的にみて、どれが多いかという風に聞いたら。
→これまで扱ったテーマのうち多く扱われたものを３つ選べ。その理由。というように聞いたらどうか。

＜継続性＞
・国際理解教育に取り組んでいる期間。継続性の観点から聞きたい。１年以内、数年前からというような軸があったらよいと思う。

・最近増えているのか？ニーズが高まっているかどうか、最近始めたのかを知りたい。

＜地域の国際性＞
・外国人居住者が学内に多いかどうか？を聞きたい。
・高齢者が多い、外国人居住者が多いとか…。
・感覚として、地域の中に外国人居住者が多いと感じているかどうかを聞きたい？
・地域の特性を先生は知っている？小学校はよいが、中、高となると難しくなる。
・地域の特性をこっちが把握していればよいのでは？
・地域の範囲は、尾張・三河から、各小学校区までどこまで指すのか？
・地域性があるのは保見とか特別な所だけでは？
・どういう特性でクロス集計をしたいかこちらが明確に持って質問しなければならない。
・No.1と2はくっつけて、地域の外国人も加えたらよいのでは。
・以前ＡＩＡで調査したが、わからないという回答が多かった。
・選択肢を多くいると思うぐらいに簡単にして入れたら。
・地域の特性は聞かずにこちらが把握できるデータで処理をしたらどうか。
・自由記入欄で特別な地域性があるか聞いて評価する程度にしたらどうか。
・国際理解教育の必要性を聞いた後、それはなぜかを聞いたら、そうした地域性が出てくるのでは。

＜国際理解教育・開発教育の範囲＞
・国際理解教育の中には、環境、人権すべて含んでくると考えるので、国際性だけを全面に聞くのはどうか？この研究会の中でも国際理解教育の範囲を明確にする必要がある。
・国際理解教育で何に取り組んでいるか聞いた時に、その先生・学校の考える範囲はわかるのでは？
・国際理解教育の深い概念について、わかってもらうのもこのアンケートのねらいだとすれば、どのアンケートのどの段階で深い概念を明確にするかが問題である。
・こちらとして取り組んで欲しい国際理解教育の対象範囲のすべてのテーマを列記し、実施したことがあるもの、実施してみたいもの、必要と考えるもの、取り組みにくいものにチェックしてもらうのはどうか？
・No.7国際理解教育のイメージは？の設問がそういう感じになると思う。
・No.8、9で具体的に国際理解教育に対する想いはわかるのでは？
・例えば、環境教育をやっていることも国際理解教育と捉えるとしても、その先生が環境教育をやっているけど国際理解教育をやっていないと判断したら、答えが得られないのではないか？
・アンケートの最後に、国際理解教育の深い概念について説明を加えたらどうか。
・最後を読んで、前に答えた設問の回答を見直す恐れはないか？
・例えばＪＩＣＡで行われたアンケートでは、開発教育の概念を国際協力の範囲に限定して聞いていた。このあたりを明確にするかしないかで、アンケートの答えは違ってくるので、慎重に考えなければならない。
・国際理解教育の深い概念についてはアンケートの中で触れないで、提言の時に書き込めばよいのでは。
・具体的に考えると、国際理解教育の範囲は？という設問をしたときに、深い概念の説明を加えるか加えないかで、答えが違ってくる。
・現状把握を重視するのか、啓発を重視するのかと考えると、アンケートなので現状把握を重視したい。
・偏った認識でニーズ調査するのはよくないのでは？
・意識は持っていないと思うので、考える機会を設けて、啓発を重視することも大切である。

・自分たちも２つの国際理解教育を使い分けているのでは？それが混乱を招く原因になっている。
・２つの方法がある。１つ目は国際理解教育はこういうものと伝えた上で、答えてもらう。２つ目は国際理解教育の範囲は明確にせずに、狭義に捉えている人、広義に捉えている人毎にクロス集計することも可能である。
・問題は、国際理解教育の範囲の段階で、英語教育、多文化理解、人権・環境まで含んだものというように、こちら側で分類整理する必要がある。
・アンケート上の国際理解教育の定義を狭義とするのか、広義とするのか？を決める必要がある。
・今まで国際理解教育として取り組んだテーマは？と聞くまではよいが、その後の国際理解教育の課題などを聞く場合、狭義、広義どちらを前提に聞いてもらうのか？
・広義の人権、環境としても、国際的なものだけでなく、福祉とかゴミ問題など地域の人権、環境まで入れてしまっていいのか？
・そこまで入れて国際理解教育と考えている。
・どれが含まれている？実際取り組んでいる？必要なものは？を聞いたうえで、その後の質問は実際に取り組んでいるものに対して答えてもらったらどうか。
・これらのリストの詳細さは、あまり細かくすると学校全体のことを把握するのは難しいので、ある程度大きな括りにする必要がある。
・どれが含まれている？は「あなたは」にする。

＜その他＞
・No.1 を聞く際に、全体の生徒数も聞く。教員数はいるか？→いらない。担当者の担当教科→小学校は困る。
・大まかに言うと、担当者が持っている国際理解教育・開発教育のイメージ、国際理解教育として現状取り組まれている内容、取り組めない理由、情報入手の方法、どんな情報がほしいか？が聞ければよいのでは。
・国際理解教育・開発教育のイメージは同じ選択肢になる？開発教育の中には英語教育はないのでは？
・開発教育という言葉は難しいが。→開発教育の認知度が低いので抜かすことはできない。
・国際理解教育と開発教育、よりなじみがあるのはどっち？という設問があったらよいのでは。どっちもない、同じ、各々という４つの選択肢を入れて把握する。その上で、国際理解教育、開発教育のイメージを聞くという流れにしたらどうか。
・国際理解教育、開発教育の定義を明確にしないと答えられない。→最初のあいさつで簡単な説明が入る。
・属性を聞く設問は最後でよい。
・ワークショップとかファシリテーターは重要だと考えるので今回のアンケートで触れなくてよいのか？→取り組んでいる方法なのでそれに関係する設問で触れられるのでは。もしくは研修の所で入れたらどうか。
・どんな外部のサポートが必要ですか？という選択肢で、ファシリテーター派遣、教材の貸し出し、プログラム相談、海外経験者の体験談等を入れて、簡単な説明を加えたらどうか。

３．その他連絡事項

・次回委員会　平成１５年１０月２１日（日）午後１時～５時。
・内容は、今後のスケジュールを再度検討し、アンケート票の最終チェックとするか、当初どおり今後の提言に向けた意見交換にするか決め上で、メーリングリストで連絡する。

以 上

別紙１

■ アンケート設問の個別カードの優先順位付け

＜★印は７人以上の選択があった項目＞

学校の「国際性」に関する事ついて　　＜全９人中＞

・01 外国籍児童・生徒数　６
・02 長期海外経験児童・生徒数　４
・03 既存の教科の中で国際性（地球市民性）を高める取り組みをしているか？　２
・04 学校と外国人保護者／長期海外経験を有する保護者との関係は？　１
・05 次のいずれかはありますか？　国際教室・日本語教室・加配教員　６

国際理解教育の認知度とそのイメージ

・06 国際理解教育と開発教育とでは、どちらの名前により馴染みがありますか？　０
★07 国際理解教育のイメージは？　国際理解教育に含まれると思う内容（選択肢）　９
・08 国際理解教育に関する言葉の認知度（ファシリテーター／ワークショップ／KJ 法等）　２
・09 あなたの身近に国際理解教育を行っている人はいますか？　２

開発教育のイメージ

★10「開発教育」と聞いてイメージすることは何ですか？　７
→選択肢
途上国の開発援助／人間開発・人材育成／日本と世界のつながり／持続可能な環境と発展／途上国の貧困問題
・11 開発教育とは途上国の低開発と先進国の過剰開発をめぐる問題の理解と解決をめざす教育ですが、あなたは「開発途上国」の問題をどの程度取り上げて教えていますか？　３
・12 外国に関する問題を教科書を離れてどれくらい話すか？　０
・13 あなたの身近に開発教育を行っている人はいますか？　０

取り組んでいるか？内容は？

○取り組んでいる人
★14 国際理解教育として取り組んでいることは何か？　９
★15→どの科目・分野で扱っていますか？　９
★16→どのような内容の事を？　９
→選択肢：英語／外国人との交流／世界の文化調べ／姉妹提携校との交流・留学／途上国を巡る問題／先進国と途上国の格差／エッセイコンテスト／スタディツアー／その他
★17 どのような方法を用いて　７
→18 国際理解教育に取り組む体制は？　個人？委員会（チーム）形式？
・19 国理教育／開発教育を進める上であなたが必要だと思うものは何ですか？選択肢で
・20 評価はどのようにしていますか？　３
★21 国際理解教育を通して育みたい力は何ですか？　８
★22 国際理解教育で何を伝えたいですか？　９

★23 国際理解教育に取り組んでみて、成果はありましたか？　どのような成果ですか？　8
★24 国際理解教育に取り組んでみて、課題（問題）はありましたか？　どのような？　9

○取り組んでいない人　　＜ここから１人増えて全１０人中＞
・25 国際理解教育に取り組まない理由は何ですか？　5
★26 国際理解教育に取り組もうとする時の障害は何ですか？　7
・27 自分でも国際理解教育／開発教育を行いたいですか？　4

課外での国際理解教育の取り組みについて
・28 課外ではどのような国際理解のための取り組みをしていますか？　5
→募金と送り先
支援物資集めと送り先
ペンフレンド・里親・姉妹校との交流実績
国際協力団体事務所訪問など

情報入手方法
・29 そのように教材を作っていますか？　困っていることはありますか？　3
★30 国際理解教育／開発教育の情報はどのように入手していますか？　7

外部協力へのニーズと内容
・31 外部の協力を得たいと思うのはどんな部分に関してですか？　3
★32 学校の授業として外部リソースを利用した事はありますか？　１０
★33 どんな外部リソースを利用しましたか？　１０
選択肢：NANGOC, AIA, JICA, NIC, ぼらんぽ、その他ＮＰＯ
→34 何のカリキュラムの中で利用しましたか？　6
★35→外部リソースを活用した経験上、よかった点は？　よくなかった点は？　１０
★36 外部リソースを活用する時の条件（制約）は何かありますか？　9

学外との連携
・37 他団体の協力を得ての研修会・勉強会の実施　　あるならどのような内容で？　1
・38 学校と地元の自治体・国際協力／交流団体・ＮＰＯとの協力関係はありますか？　5

効果／成果／期待／必要性について
★39 国際理解教育／開発教育を学校で取り組む事は必要だと思いますか？　はい／いいえ　8
→40 またそれはなぜですか？
・41 環境、人権、平和、途上国をめぐる問題等を生徒に教える必要性を感じますか？　5
→42 またそれはなぜですか？
・43 国際理解教育／開発教育を進める事で得られる効果は何があると思いますか？　4
→44 取り組む事でどのような力が児童／生徒に身につくと思いますか？
・45 現在の社会が抱える課題はどんなことがあると思いますか？　0

→46 どのような社会になるといいと考えますか？　0

総合学習に関して

★47 総合学習でこれまでに扱ったテーマは何ですか？（例：環境／福祉／情報／文化理解）　7

・48 総合学習のテーマとして国際理解教育／開発教育のプライオリティは？　4

★49 今後総合学習で国際理解教育を導入する希望、または予定はありますか？　8

・50 総合学習に関わる予算はどれくらいですか？　5

・51 総合学習にかける時間は何時間ですか？　3

・52 総合学習の学習形態は？（人数、回数、縦割り、合同？　教師主導？生徒主導？）　3

・53 総合学習の方法は？　フィールドワーク／調べ学習／ワークショップなどなど　2

・54 総合学習のテーマ（学校／学年などで）はどのような方法で決まりますか？誰が中心？　3

・55 総合学習に対する教員間の温度差は？　0

・56 学校の業務の中でもっともあなたが時間をかける（時間がかかる）のは何ですか？　0

・57 総合学習／国際理解教育に関わらず、カリキュラム編成はどうやっているか？　0

→58 カリキュラム編成に関して問題に感じる点はありますか？　0

→59 次年度のカリキュラムはどの時期に決まりますか？　0

・60 総合学習に関する人材育成はどのようにしていますか？　0

・61 総合学習はそのねらいを達成できていますか？　2

★62 総合学習…現場の先生の率直な気持は？　7

・63 今後どのような視点で総合学習に取り組みたいですか？　2

・64 学校で育てて行きたい「生きる力」とは具体的にどのような力ですか？　0

→65 国際理解教育／開発教育はその生きる力を養うのに役立つを思いますか？　0

研修に関するニーズ

・66 今までに国際理解教育／開発教育に関する教員研修はありましたか？（校内／学外）　4

★67 今までに国際理解教育／開発教育に関する研修に参加したことはありますか？　7

★68 国際理解に関する教員研修を希望しますか？　7

・69 教員自身／学校自身の「内なる国際化」に関する研修の有無　0

・70 毎年この地域で行われている「国際理解教育地域セミナー」の存在を知っていますか？　3

追加提案

・71 国際理解教育に取り組んでいる期間

・72 地域との相関がとれるような質問。例：外国人滞在者が地域に多くいるか？など

以上

■ 第５回　愛知県における国際理解教育・開発教育ニーズ調査研究会　議事録

◆日時：平成１５年１０月２１日（火）午後6時４５分～１０時

◆場所：ＮＩＥＤ・国際理解教育センター事務所

◆参加者：（委員）荻原、久世、栗木、里村、田中、濱田、村山、山中<敬称略>

（事務局）礒貝、藤原、川合

（オブザーバー）ＪＩＣＡ中部国際センター：賀島

愛知県交際交流協会：加藤

名古屋国際センター：林

◆配布資料：

(0)レジュメ（議事次第）

(1)愛知県における開発教育・国際理解教育ニーズ調査のアンケート設計について

(2)研究会のスケジュール（案）

◆議事の経過と結果の概要

1　本日のねらい確認

・アンケート調査の基本的事項の決定

・特定の１０校をどう選ぶか？とその意義の確認

・回収率を上げるためのアイディア共有

・今後のスケジュールの確認

2　アンケート調査の基本的事項について確認

◇ 送付先と結果の取り扱い

① 全ての小・中・高等・養護学校…　校長名で送り、国際理解・総合の担当者に答えてもらう＝基本データ

② ＪＩＣＡ中部と関係のあった教員（約４００名）…<担当教員>部分の設問のみ回答

基本的に①とは別集計、但し国際理解に取り組む教員への設問は合算

3　特定の１０校をどう選ぶか、そのデータをどう使うかの検討

・一つの学校内の教員の温度差を確かめるというねらいで１０校選定してそれぞれの全教員に回答してもらうという案が出た。

・１０校選出に関するJICA案は、１０校は「高校」に限定して愛知県高等学校国際教育研究会にお願いする

→しかし、高校では総合が一足遅れで始まったところ。どれほどの回答が得られるかは疑問。

→高国研の選手する１０校となると、そこでひとつのバイアスがかかるのでは。

→温度差を見るだけなら、すでに温度差があることは予想されていることなので、意味はないのでは？

→担当者か担当者でないか、世代間、性別など色々なカテゴリーでの意識をリサーチすることはできる。

→全校で一人の担当者に答えてもらうのでも大変なことなのに、全校の全員の教員に答えてもらうとなる

とさらに困難をきたすのでは。

→データが集まればそれはそれで興味深いが、労力を使うほど今回はメリットのあるものとも思えない。

・以上検討の結果、今回は学校教育現場で国際理解教育・開発教育推進への提言につなげたいアンケートなので、面白いからということではなく、提言につながる基本アンケートに力を注ぐことにして、１０校選出アンケートは今回はやめるということで決定。

4　回収率を高める方法

① 推薦文（教育委員会または緒方貞子さん等著名人）
② 直接協力依頼
③ 発送用封筒への表記　答えたくなるような表記キャッチーなコピー

→校長会にお願いに行くのが一番現実的
→上記、１、２、３、はやってもマイナスではないけれど、大きな推進力にもならない
→高等学校国際教育研究協議会の幹事である校長先生には、愛知県下全高校全部に周知していただくようお願いしてもらうことになっている
→教育委員会へのお願いとして、教育長宛に周知のための文書は出してもらう。(紙一枚をボックスに)
→学校にたくさん送られてくるアンケートのお願いの中で、回答する優先順位としては、１）教育委員会からのもの　２）卒業生からの依頼　３）学校や教員にメリットがありそうなもの　だということ。
→アンケート送付封筒の表に何が書いてあろうが、あまり関係はない。担当者にきちっと渡ることが大事。
→基本的に先ずは校長に届くこのアンケートが、的確に回答して欲しい教員の所に届くためには、難しいことをあまり言わない方がいい。いくつか担当分野を羅列して、そのどれかに関わる人にお渡し下さいとする。例えば国際理解・人権・環境・平和…などの授業や活動を行っている担当教員

5　アンケート票の中身について

・研究会のねらい／アンケートのねらい／を確認し、アンケートで聞きたいことの優先順位をつけた全回の議論を踏まえて、アンケート内容叩き台（１０頁）を本日用意したので作成者川合から説明。

＜検討の視点＞
①聞きたいと思っていたことは聞けているか
②設問に対する選択肢は適切か
③わかりやすい設問、選択肢になっているか
④その他

＜全体構成項目立て＞
1）認知度とイメージ
2）総合学習においてどの程度取り組まれているか
3）総合学習のねらいと課題について
4）人類共通の課題を扱う教育の取り組み度と内容

5）外部サポート利用実態とニーズ

6）研修ネットワークへの参加およびニーズ

1）についての意見

→一番初めに聞かれる選択肢が難しいとイヤになる。

→正しい答えを求めていて「あなた知ってる？」的ではなく、イメージとしてあっさり答えやすいものがいい

→国際理解教育・開発教育の本来のねらいに見合う選択肢（テーマ・切り口）を入れることで、一つの新たな情報提供にする。

→同じような教育のはずなのに、なぜ選択肢はこんなに違うのか？というように回答者が混乱しないように、国際理解教育のイメージと開発教育のイメージは同じ選択肢にして、複数回答可にする。(選択肢は宿題として検討＝シンプルで多様に)

→国際理解教育の方が認知度が高いのであれば、「国際理解教育・開発教育」という順番にする。

2）についての意見

→総合で扱われているテーマの上位を知るために、多様なテーマを羅列して複数可で選択してもらう。「その他」という選択肢もいれる。

→1）のイメージの選択肢と同じテーマにして、取り組んだものを選んでもらう

→これから取り組みたいものも上記と同じ選択肢でいく

3）についての意見

→総合学習と基礎学力を露骨に比較して質問するような設問は避ける

→べきだ論にならないような表現にする

→学校教育において、どちらかといえば、総合学習に重点的に取り組みたい／基礎学力に重点的に取り組みたいという選択設問にする。「両方」という選択肢は入れない。

→総合の具体的内容の評価まで言及しないで、自分自身が自信を持って、ねらいに見合った実践ができているかどうか？という設問にする。

→ふりかえりをしているかしていないか、という質問の他に、「ふりかえりは学校全体に活かされているか？」を追加

4）についての意見

→人類共通の課題を扱う教育　の内容に関する選択肢の変更点

…南北格差→南北問題へ／１３番は消す／国際協力／異常気象は消す／在日は在住外国人として包括／自尊感情はセルフ・エスティーム（自己肯定感）という表記に変える／コミュニケーション能力追加／多文化共生→在住外国人との共生にする／こどもの権利　にする／難民　を追加／医療保健　追加／識字・教育を追加／

→「今まで」という言い方はとても漠然。「過去3年間に」という期間を限定する。

→「この部分はこのページをコピーをして関係教員に回答をしてもらってもいいですよ」という回答作業軽減のためのアイディアを加える

→「何を参考に事業計画を立てましたか？」という設問にする

インターネット、同僚・先輩から、外部講師に任せた、特になし、を選択肢に加える

→人類共通の課題を扱う教育に取り組んだ成果は自由記入欄で書いてもらう。
「書ける範囲で結構です」を加える
→取り組む上での課題…取り組んでみての課題　と　取り組む時の障害　と分けて質問する。その場合の選択肢には、予算措置がない／情報が少ない／時間がない／自分自身に関心がない　などとする。
→「授業外での取り組み」とは、担当教員個人的な興味関心における個人の活動のことではなく、学校全体で、または個人の教員が学校内行った取り組みに限る。「児童生徒の活動で」という言葉を入れる。　国内スタディーツアー、フィールドワーク（現場視察）、「その他」を選択肢に入れる。

＜宿題＞
5）6）に関しては、変更したい部分を、メールで提案代案をだす
イメージの選択肢に関してアイディアをメーリングリストで

6　今後のスケジュールについて

① 今年度末までのスケジュールの確認
② 第９回の追加
③ 第６回を２時間、第７回を４時間に変更する日程調整

以 上

■ 第６回　愛知県における国際理解教育・開発教育ニーズ調査研究会　議事録

◆日時：平成１６年１月９日（火）午後６時３０分～９時３０分

◆場所：ＮＩＥＤ・国際理解教育センター事務所

◆参加者：（委員）荻原、久世、栗木、里村、田中、野田、濱田、村山、山中<敬称略>

（事務局）礒貝、川合

◆配布資料：

(0)レジュメ（議事次第）

(1)ＪＩＣＡ国際理解教育・開発教育ニーズ調査結果（単純集計結果：簡易グラフ付き）

(2)ＪＩＣＡ国際理解教育・開発教育ニーズ調査結果（学校区分別クロス集計結果表）

(3)自由記入部分全文

(4)研究会のスケジュール

◆議事の経過と結果の概要

１　本日のねらい確認

・アンケート調査結果（速報）からわかることの抽出、整理

・提言の基本的な枠組みの検討

・今後の作業方法と役割分担・スケジュールの確認

２　アンケート調査結果の概要について

・調査担当者から説明した。

３　アンケート調査結果からわかることの抽出、整理　→別紙１参照

・各自でアンケート単純集計結果を読み解き、そこからわかること、課題や提言につながるものをカードに書き出し、模造紙上で分類整理

（２人ペアで、さらに前からのグループと後からのグループに分けて、読み解いていく。）

・自由記入欄に関しても同じく大分類別に分担して読み解く

・自由記入欄に書かれた「人類共通の課題に取り組んだ成果」を、小学生／中学生／高校生／養護学校生徒／教員／保護者／地域　毎に分類して、読み解く作業を分担して行う。

４　提言の基本的な枠組みの検討

・これまでに研究会で考えてきた、学校教育で国際理解教育・開発教育推進に向けた課題や、アンケート調査結果から分類整理された課題を基に、提言の基本的な枠組みを検討することを確認した。

5　今後の作業方法と役割分担・スケジュールについて

・今回アンケート結果を読み解いたことを改めてまとめてメールで発信。
・それに関して、提言として盛り込みたいキーワードやポイントを各自検討してメールで発信。
・その結果をふまえ、山中の方で提言のたたき台を作成し、次回研究会で検討する。

以 上

別紙１

■ アンケート結果から読み取ったこと　まとめ

１　「国際理解教育」や「開発教育」の認知度・イメージ　Ｑ１～７
２　総合学習における「国際理解教育」への取り組みについて　Ｑ５～８
３　総合学習のねらいと課題について　Ｑ９～１２
４　「人類共通の課題を扱う教育」の取り組みについて　Ｑ１３～１８
５　外部リソースの利用実態及びニーズについて　Ｑ１９～２２
６　研修・ネットワークへの参加実態・ニーズについてＱ２３～２８

１　「国際理解教育」や「開発教育」の認知度・イメージ　Ｑ１～７

国理と開教とのギャップ

・国際理解教育と開発教育ではイメージが違う
・日本的国理と国際的国理とのギャップが大きい
・国理の方が幅広く捉えられている
・「様々な課題の解決に～」の教育と捉えているのは、国理２３．２％
開発教育４１．２％

国理のイメージ

・異文化理解　国際交流　外国語
日本の文化伝統　在住外国人
という従来の日本型イメージ
これは小中高擁差共がない

委員のイメージより狭い

・「国際」に対する理解の範囲が狭い
・国際理解教育のイメージは指導要領や教科書に取り扱われているものに偏る
・国理のイメージ、私たちが大切だと思うものは、かなり低いところの認識に留まる
・外国語学習（英語）を国理のテーマとして７割の人が上げている

開発教育のイメージ

・開発教育の認知度はわずか１割
・イメージは「開発」という言葉から受けたものに偏る
・開発教育のイメージはばらばら
・国内の問題に対するイメージは少ない
・自分とのつながりに対するイメージは少ない
・「開発教育のイメージ」として「日本の伝統文化」を選んだ人はある意味すごい！？

盲聾養学校では文化理解までが精一杯である実情が伺える

２　総合学習における「国際理解教育」への取り組みについて　Ｑ５～８

取り組まれるテーマは多様

だが

国理は従来の日本型（文化理解／交流）

・日本の国理の歴史、文化省の意図が反映された結果か？

・日本の伝統・文化とともに取り組まれる（異文化理解や国際交流とセットで）

だが

本来の国理のテーマは社会科で

・総合より社会科で扱われることが多く

総合では身近なテーマが扱われている

国際理解教育として取り組まれている中で

意外と「在住外国人との共生」が少ない

３　総合学習のねらいと課題について　Ｑ９～１２

３分の２がねらいに見合った総合学習が実践されていると回答

一方

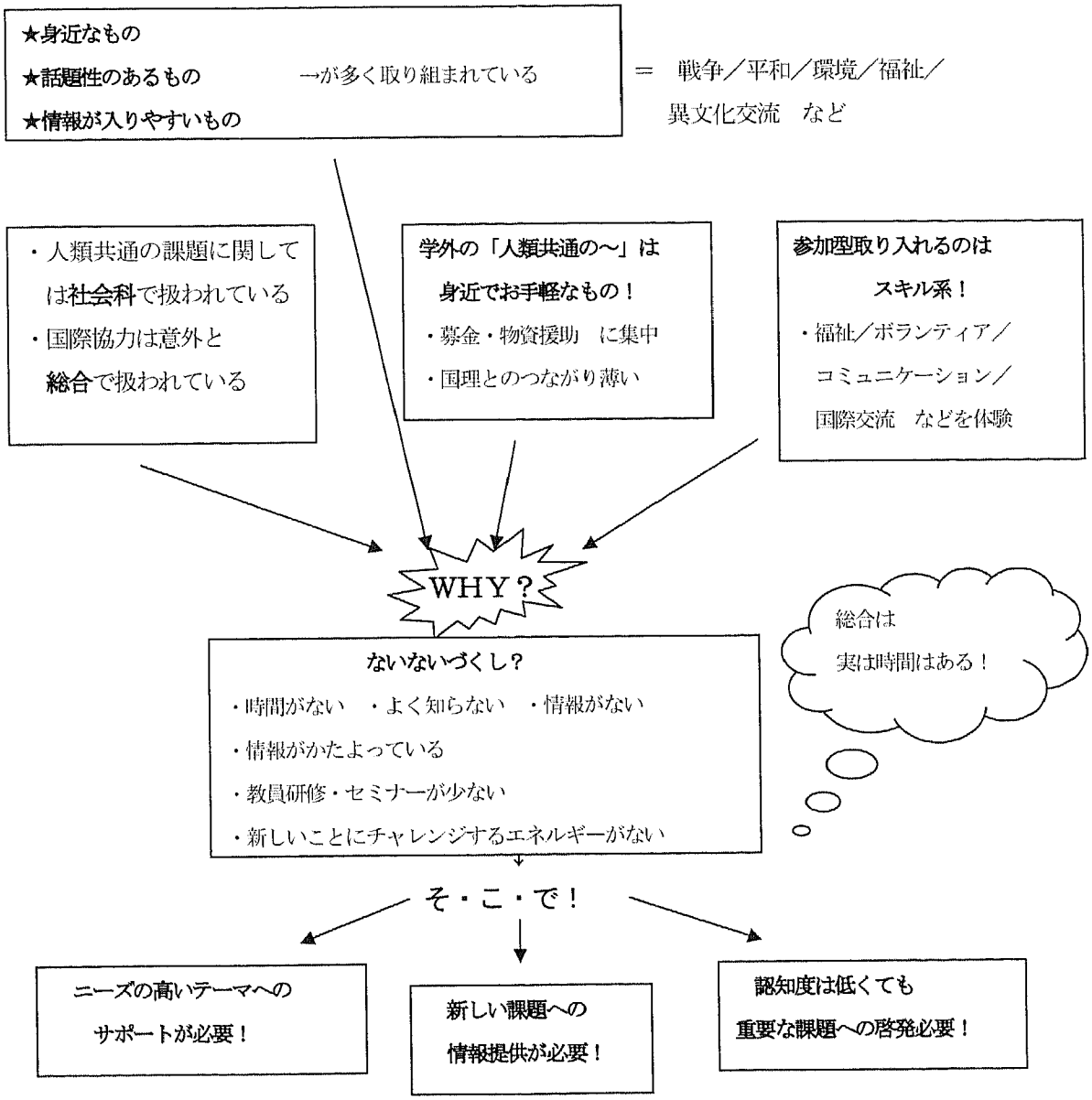
ねらい達成のための「課題」はまだ多くあるあるという認識

→ 重要でないと思っているわけではない

ではねらい未達成の原因／ねらい達成への課題は何か？

- 基礎学力の方が優先される → 基礎学力６０％　総合学習３０％
- 扱うテーマの認識不足 → 小学校は英語が多い
- 単発の授業形態 → 知識面に流れる　つながる展開にならない

4　「人類共通の課題を扱う教育」の取り組みについて　Q１３～１８



５　外部リソースの利用実態及びニーズについて　Ｑ１９～２２

よく使われているリソース

★行政の信頼性！	★お手軽さ！	★わかりやすいさ！	★流行りの訪問系！
・地方自治体／政府機関	・講師派遣	・ビジュアル教材	・中学校の
なんと４０％が利用	参加型より体験談への期待	ビデオ／写真など	分散学習で

↓

ノウハウよりも、すぐに使えるものが求められる

なんでだろ～～～？　なんでだろ！？

時間がない！

今までのやり方を変えたくない！

そ・こ・で！！！

★提供側が質を高める！
★提供側がノウハウ込みで伝授する！

いい講師！手法としての参加型は売れる！！！

６　研修・ネットワークへの参加実態・ニーズについてＱ２３～２８

研修の課題と提言

先生方は時間がないと外部研修を受ける余裕がないし、内部の研修も少ない

↓

じっくり自分たちで考え、カリキュラムを組むよりは、外国人、視聴覚教材に頼ることになる

↓

したがって、人類共通の課題を扱う教育はとっつきやすい、手っ取り早いものに走る

↓

（提言）学校の内部で研修ができるよう、外からサポートしてあげればよい

↓

そのためには学校との信頼関係を築いていくことが大切

↓

学校側も、外部に対してオープンになる必要あり

ネットワークへの参加は少ないが（３%）参加希望は比較的多い（２８%）

ネットワークへの参加３%と少ない。でも参加したいは２７．９%
このニーズをどう読むか？
どうネットワークに組み込むか

ネットワークに参加したい人
約１／４強

ネットワーク少ない
→でも希望するのは多い

ゲゲー！ネットワークに参加している人
２３人／７５５人

教員のみネット少ない

教員のみのネットワークが少ない
→存在が少ない。
地球的規模の問題には、いろいろなフィールドからの参加者があって成果がでるのか？

→

外部リソースの必要性

地球的規模の問題について研修するとき、教員以外を含むネットワークへのアクセスを希望するが８５%→外部リソースの必要性
要連携！

校内研修少ない

校内研修少ない１７．４%
小学校は比較的多い２２%
しかし開発教育の認知度は小学校は最も低い→なぜ？

→

参加度低い

学内学外共に国際理解教育研修の参加度は２割以下

小と中高の研修への意識

学外研修（小 22.9、中 16.9、高 15.7）
学内研修（小 22.4、中 8.7、高 10.5）
小学校より中高等学校の方が内部研修少ない文、外部研修に意欲がでる

■ 第７回　愛知県における国際理解教育・開発教育ニーズ調査研究会　議事録

◆日時：平成１６年１月３０日（金）午後６時００分～９時３０分

◆場所：ＮＩＥＤ・国際理解教育センター事務所

◆参加者：（委員）荻原、久世、田中、栗木、里村、野田、濱田、村山、山中＜敬称略＞

（事務局）礒貝、川合

◆配布資料：

(0)レジュメ（議事次第）

(1)国際協での発表した「愛知県における国際理解教育・開発教育ニーズ調査結果報告書要約版(案)」

(2)各委員から寄せられた提言アイディア

◆議事の経過と結果の概要

1　本日のねらい確認

・委員から寄せられた提言アイディアをもとに、提言のポイントと基本的枠組みの検討

・内容詳細に関する検討と今後の役割分担

・アクションプランについての座長提案と検討

2　愛知県高等学校国際教育研究協議会の研究大会の報告

・本ニーズ調査をするにあたり、高校への周知に関して「愛知県高等学校国際教育研究協議会」にご協力をいただいた。同会の研究大会に座長が出向き、ご協力のお礼と、調査結果報告、提言座長私案紹介の経緯を委員に報告。

・その時、説明用に事務局で用意をした「愛知県における国際理解教育・開発教育ニーズ調査結果報告書要約版」について説明。

3　提言の基本的な枠組みの検討

＜提案のまとめ方について＞

・①誰から誰への提案という軸　②課題ごとに提案という軸　③政策か手法かの提案の軸がある

・誰に向けての提案かというと、教員に向けて行うとともにその向こうにある教育政策立案者ということも見越している

・委員それぞれの立場で自然に提案を考えれば、誰から誰への提案となるかは決まってくる推進者から教育現場に／推進者から推進者に／推進者から教育政策立案者に

・提言というより、より行動で示す具体的な方法を提案。

・提案を実現するためにステイクホルダーが何をしていけばよいかを示す

4　研究会委員から寄せられた提言アイディアと座長私案共有

・意見交換を行った結果、概ね次のような内容としていくことを確認した。

・ポイント：日本型国際理解教育からのシフト　→　「人類共通の課題を扱う教育」　に向けて

0）そもそも　なぜ「生きる力」か？

→教育の本質は生きる力を育むことであり、国際理解教育・開発教育は生きる力を育むための大きな可能性を持つっている。

→方法論としての国際理解教育・開発教育の提案

1）委員が考える国際理解教育・開発教育に幅広く取り組む

→人権、環境、国際理解　どれも国際理解教育・開発教育のテーマ

→現状の問題を提起

不登校、犯罪の低年齢化などの国内問題と、地球規模の問題の相互依存性　→　生きる力とのリンク

生きる力が学力向上にもつながることの提起

2）長期的ビジョンを持ち、継続性を確保する

→　おまけの教育ではなく、国際理解教育の重要性の認識ｕｐ！

3）体験を経験につなぐ参加型手法（学ぶ主体を育む方法）の提案

→具体例を入れる　体験→共有（気づき）→何がいえるか（ふりかえり）→どうしたらよいか（応用）

4）教員自身が参加型のノウハウを身につけることのメリットと提案

→まわりに協力者・リソースがいっぱいあることの助言

・提言には、学校と世界と生徒と身近な世界（地域）とをつなぐ段階が必要

5　この研究会または提案者自身の行動計画（アクションプラン）について

・基本的に提言は、学校現場こんなことやってよ、あんなことやってよ、という言いっぱなしではなく、こんな目的を達成するためにこんなことをしていきませんか？という提案を。

・学校現場に提案するだけではなく、そのために私たち国際理解教育・開発教育実践者は今後もこんなことをしていきます、という具体的なプランを示す。一緒にやっていきましょう！という視点が重要。

→後はメール上で提言への提案と
アクションプラン提案を共有

以　上

■ 第８回　愛知県における国際理解教育・開発教育ニーズ調査研究会　議事録

◆日時：平成１６年２月１１日（水・祝）午後１時～９時３０分

◆場所：ＮＩＥＤ・国際理解教育センター事務所

◆参加者：（委員）荻原、久世、田中、栗木、里村、野田、濱田、山中＜敬称略＞

（事務局）礒貝、川合

◆配布資料：

(0)レジュメ（議事次第）

(1)提言部分座長案

(2)委員からＭＬで寄せられた各提言案

(2)当初計画の成果品の内容

◆議事の経過と結果の概要

１　本日のねらい確認

・委員から寄せられた提言案をもとに、提言の最終検討

・「アンケート調査結果からわかること」の『要約』への掲載事項の検討

・成果の形態と内容の確認と今後のスケジュールの確認

２　研究会委員から寄せられた提言案をもとにとりまとめた座長案検討　→別紙１参照

◇提言部分の座長案に対して、各自カードに書き出し、発表後、次のとおり意見交換を行った。

＜全体に関わること＞

・もれなく国際理解教育・開発教育という併記にする。

・文章量をもう少し工夫する必要があるのでは。代替案として長くなるのであれば、要約を各項目の前に載せるとか、チャートを載せて視覚的に見せることを考える必要がある。

・前回の方がわかりやすかったが…。いろんな意見が混ざってしまって、書いてあることが重複している感じがするので、もう少し整理した方がよい。

・１番目、２番目、３番目、４番目、５番目は生徒だけではなく先生も学ぼう！というように要約したらどうか。

・人類共通の課題は自分たちの課題であるということをしっかり書くべきでは。「捉える」という他人事のレベル問題ではなく、自分たちの足下で起こっている問題として書くべき。

・１と２の間で論理の飛躍を感じる。

・「アンケートによると…」を「表○に基づくと…」というように根拠を明示すべき。

・「シフト」という言葉は外せない。「視点を変えてみませんか」というやさしさを出している場合ではなく、根本的なパラダイムシフトが必要！という明確に打ち出す必要があるのでは。それが提言の骨格になると思う。

・文章自体は固くなくやわらかい文章の方がよいと思う。上からくる物言いより、何か手がかりがほしいと思

っている人に対してやってみよう！と思ってもらえるような表現方法がよい。

・タイトルが私的にはわかりにくいので、わかりやすくしたい。全体の構成も２の次に４とつなげた方がよい。

・参加型学習だと多様性が確保されることを加えたい。

・提言の根拠を明確にするために、アンケートで関連する部分の結果を載せて参照する。

・従来の国際理解教育と本来の国際理解教育の、従来と本来とは具体的に何をさすのか、また、誰が考える従来と本来なのかを明確にする。

・知識の習得も重要であるという視点は外さない。

＜提言１＞

・下から４行目。「国際理解教育の使命です」というところをもう少し柔らかくした方がよいのでは。

＜提言２＞

・参加型について触れているところがあるが、それは＜３＞に持っていった方がよいのでは。

・「共に生きる力」を国際理解教育でどのように育んでいけるのかイメージがしにくい。具体的な方法を示す必要があるのでは。他の教科との違い、国際理解教育ならでは！のことが見えにくい。

・「共に生きる力」これが教育なんだ！ということをはっきり言うべき。教育に携わるものの責務なんだ。日本国憲法にも教育基本法にも書いてある。

・「共に生きる力」ではなくて、ここでは「一人ひとりの生きる力」だと考える。

・「共に生きる力」が育まれれば勉強もできるようになる！と明言する。

＜提言３＞

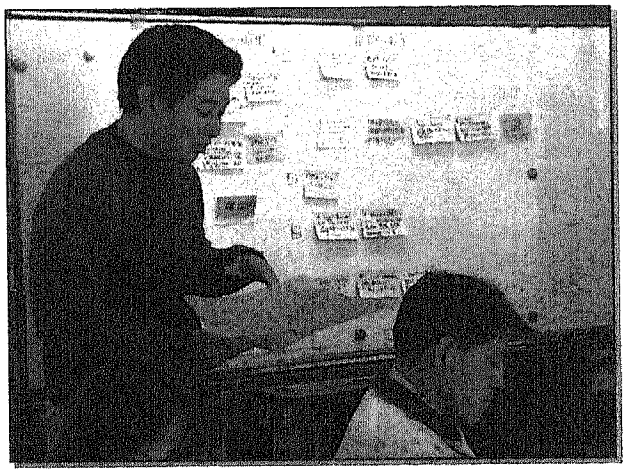
・「体験を経験につなぐ」という言葉は業界的な言葉かもしれないので、注意をする必要がある。「経験を体験にしていく」と感じる向きもある。

・経験学習の４段階はどこから持ってきたのか明示する必要がある。

＜提言４＞・なし

＜提言５＞

・教師も主体的に学ぶ必要がある。先生が参加型の授業をする時には我々もサポートする。研修だけでなく、カリキュラム作成サポートや人材も提供する。



▲座長私案に対してカードに書き出して発表

・「参加型」はとって国際理解教育だけにすればよいのでは。

・参加型の手法などのノウハウも一緒に提供してくれる…という前に、これからの団体の必要性について触れた上で書くべき。→表７を入れて述べる。

＜読みやすさについて＞

・ソフトだったらやる気が起きるか？

・視点を変えてみませんかｖｓシフトしよう

・「事実」に基づいて言えることは多少きつく言ってた方が説得性があるのではないか。

・相手に気を遣い過ぎず根拠に基づいて述べたい。相手の受取方はケースバイケースなので、研究会がどう考えるかが大切。

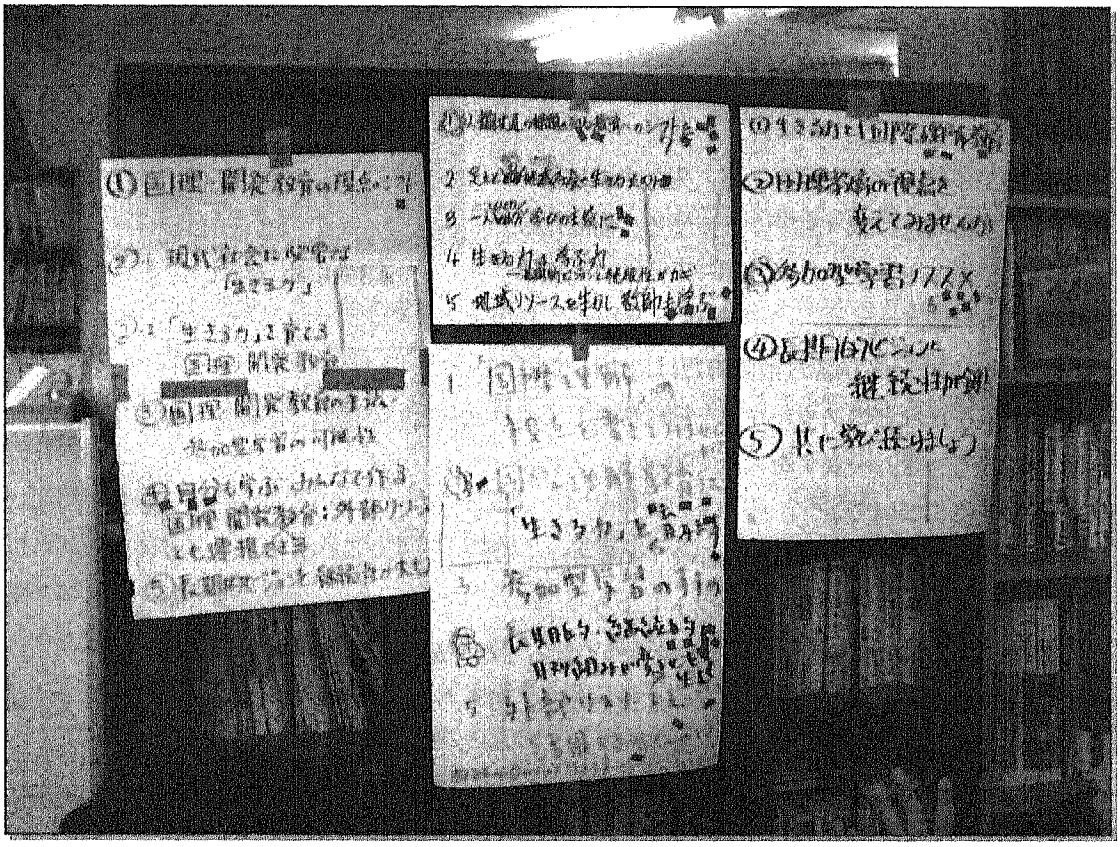
・～すべきだ！という表現はカチンとくるので、○○だから○○してみませんか？という表現にしたが。

・「シフト」が提言の根本だと思う。

→基本的に、事実に基づいて、根拠を明示した上で、表現する。
→「ですます調」が「である調」か→「ですます調」とする。

4　タイトルを決める

・２人ペアになってタイトル案を考えた。４グループ各１案作成し、４案できた。
・１人４票もって、投票
・提言１～４のタイトルは多数で決定した
・提言５は意見が分かれたので協議した。
<提言３についても意見交換>
・提言３は、「参加型学習」と呼ぶか「学習者主体の学習」とするのか？
　→主体性という言葉は教育現場では使われている。参加型という方が新鮮味がある。
　→学習者主体という内容はきちんと説明する
　→副題を入れたらどうか？ＯＫ。～一人ひとりが学びの主役に～
　　↓
★決定した５つの提言のタイトル
１．人類共通の課題を知る教育へのシフトを
２．国際理解教育は「生きる力」を育む
３．参加型学習のススメ～一人ひとりが学びの主役に～
４．教師も学ぶ、みんなで創る
５．長期的・継続的取り組みが変化を生む



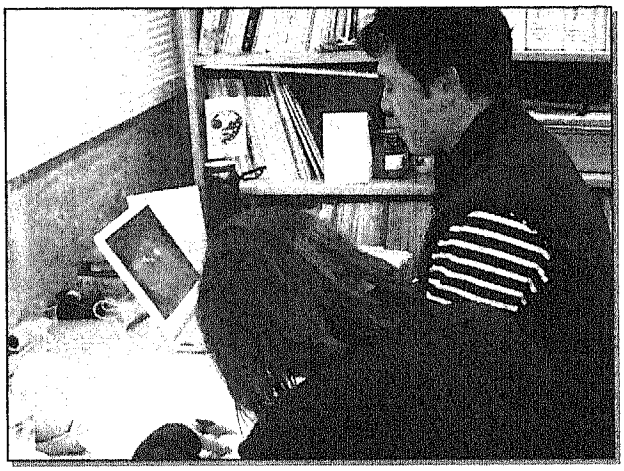
▲各グループのタイトル案と投票結果

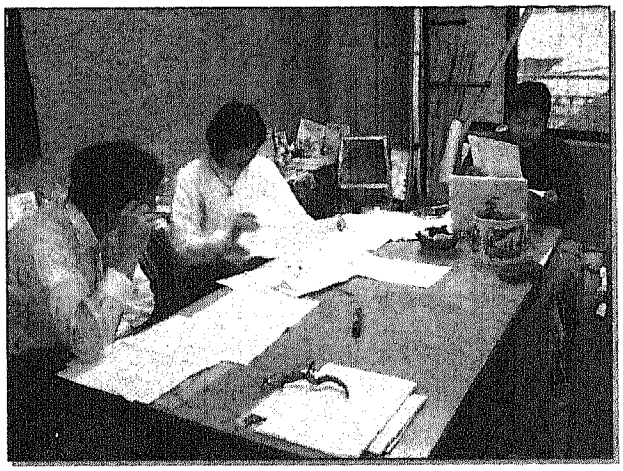
5　提言の順番について

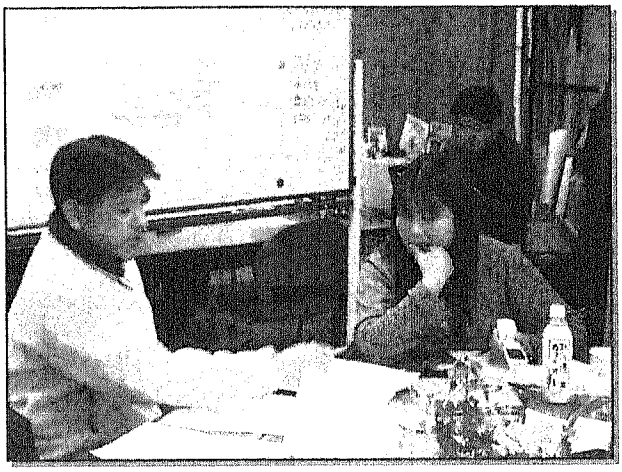
・１、２の順番は、図で国際理解教育、人類共通の課題、地域の課題などの関係についてわかりやすく示すという前提で、最初の１、２の順番とする。
・４、５の順番は、最後に、長期的継続的に取り組んでいこうねとするか、一緒にやろうねとするか。
→先にやるべき主体を示した上で、一緒に長期的継続的にやろうね。
→長期的継続的に学校でやろうね、そのためにはリソースもあるから一緒にやろうね。
→一緒にやろうねというのはもうやり始めていることなので、最後の課題である長期的継続的にやっていこうねと終わった方がよいのでは。
→学校だけへの提言ではなく、推進者全体への提言にもなる。
・多数決で一緒に長期的継続的に取り組んでいこうで終わることに決定。

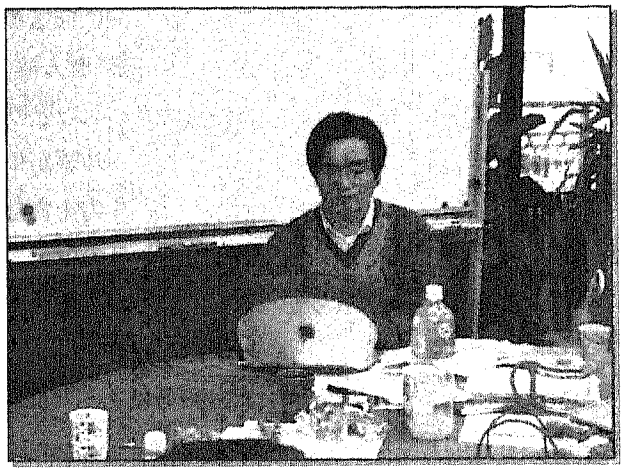
6　提言のとりまとめについて

・次の内容で、５つのグループに分かれて、１～５の提言の内容を考えた。
　１．大タイトル　２．副題　３．要約　１６０字まで　４．内容　６００字まで
・作成した各提言に対して、意見交換を行い、その結果も踏まえて、最終稿をメールに投稿し共有。座長が取りまとめることとした。


▲提言１担当：野田委員、栗木委員


▲提言２担当：久世委員、田中委員、提言４担当：磯貝


▲提言３担当：里村委員、濱田委員


▲提言５担当：荻原委員

以上

別紙１

■ 2004.02.11／提言座長案

１　人類共通の課題を知り共有する　＝「国際理解」の視点を変えてみませんか＝

今回のアンケート結果を見ると、「国際理解教育」と聞くと、「異文化理解」「国際交流」「英語教育」を考える方が多いようです。これを従来型国際理解教育と呼ぶとしましょう。従来型が間違っているわけではありませんが、本来の国際理解教育は、より多岐にわたる教育内容を含んでいます。人権、環境、多文化共生、開発、平和などの視点から、今世界がどのような状態にあるのかを包括的に知り、最終的には世界中の人々が人として尊重された生き方ができる、環境と人権の守られた社会を作ること。そしてそのために活動する主体を育てること、をめざしています。

今日の地域社会、地球社会は、人権侵害、環境破壊、貧困、開発、紛争・対立など様々な問題を抱えています。２１世紀を生きる私たちには、これらの問題を他人の問題としてではなく、自分の問題として捉え、問題提起し、人々と協力して解決していく力が一人ひとりに求められています。問題提起型・課題解決型の学習方法で、お互いから学びあう経験を積み重ねる中で、「社会の中で課題を協力して解決しながら、人々と共に生きることのできる主体を作る」のが国際理解教育の使命です。

従来型の国際理解教育にとらわれることなく、より広い意味の国際理解教育へと視点を変えて取り組むことは、社会のよりよい変化につながると考えます。

２　今こそ「共に生きる力」を　＝未来を創る「国際理解教育」始めませんか＝

国際理解教育を具体的に言うと、「自己理解・他者理解・異文化理解のための教育」「自己尊重・他者尊重を進める教育」「コミュニケーション能力を高める教育」「人とのつながり、社会とのつながりを実感させる教育」「社会に対する理解を深める教育」ということができるでしょう。一人ひとりの中に育みたい大切な力としては、自尊感情、コミュニケーションの力、協力、があげられます。

いじめ、不登校、青少年の犯罪増加など、現在日本の教育現場が抱える問題は深刻です。それらの問題の根底には、子どもを取り巻く社会環境の変化、とりわけ人間関係を形成していくために必要なコミュニケーション力の変容などが大きく影響していると考えます。　人と人との関わりが希薄になり共に生きている実感を喪失し異なる他者に共感することができない。自分に自信が持てない（自尊感情が低い）ため、多様性を認めず異質なものを排除する。構造的な支配と被支配の関係を人権の問題として認識しないので変化への行動につながらない。原因をこのように考えてみると、今こそ、一人ひとりがありのままで大切にされ、多様性が評価され、多様な人との関わりや自然とのふれあいから感じ学ぶ体験ができる社会の中で、自尊感情や他者への共感を育て、自分たちの暮らす社会に心を込めて手を入れていく力を育むことが急がれます。共に生きる力は、一方向の働きかけではなく、参加と対話を通したリアルな関わりの中でこそ育まれる力です。

国際理解教育に取り組んでいる現場の教員の方々からの声「国際理解教育に取り組んで得られた成果」というアンケート自由記入欄のまとめを一度ご覧下さい。国際理解教育は「共に生きる力」を伸ばすことに大きな成果を上げているだけではなく、「学習意欲を高める」ことにも成果を上げているのです。国際理解教育は自己理解を進め、他者との対話を通し、共通の課題解決に「参加する技術」「参加する態度」を育む、大きな可能性を持った教育であると考えます。

3　一人ひとりを学びの主役に　＝体験を経験につなぐ参加型学習のススメ＝

国際理解教育は基本的に、知識の修得そのものよりも、双方向の対話形式・参加型学習という方法で、お互いの知識、経験、気付きから学び合うことを重視します。それは、「自ら考える」「協力して創り出す」ことを繰り返し体験する中で、コミュニケーションの力、分析的な思考力、合意形成能力、課題解決への意欲などが、少しずつ養われることをねらいとしています。参加型学習とは、学びの主役である学習者一人ひとりが、主体的に学びの場に参加し、対等な立場の他者と協力して学ぶことができるよう工夫された方法です。

知識は大切ですが、知識そのものが社会を変化させるのではありません。知ったことを通して気付き、実際の行動へと活かされた時変化はおこります。

体験しただけに終わらない、体験を経験につなげるプロセスこそが参加型学習なのです。

1）体験する　2）体験したことをみんなでふりかえる　3）そこからわかったこと・言えること（法則性や原則）を共有する　4）それらを実生活で応用する　　これが体験を経験につなぐ「経験学習の４段階」です。

例えば車椅子体験という体験学習があります。車椅子でまちを回る。帰ってきて感想を共有する。「楽しかった」「こわかった」という感想を共有して終わるのでは、車椅子体験を経験につなげたことにはなりません。「車椅子でまちを回ってみて、自分の感じたこと、みんなが感じたことを通して、わかったことにはどんなことがあるか?」という３）につなげます。「段差のあるところは車椅子にはとても危険」「車椅子から手の届く範囲を考慮していない機械が多い」「歩行者には問題ないが、車椅子には不向きな幅の歩道がわたしたちのまちには多い」「○○館はスロープがあり、トイレも広く安心感があった」「○○地区は、車椅子の暮らしには問題が多い」などなど。４）では、「○○地区を、多様な人が安心して暮らせるまちにするためには、何が大切？何が必要？あなたには何ができる？」につなげることで、体験が経験則／経験知として一人ひとりの力になるのです。

参加して学ぶことの良さは第一に。「楽しく学べる」ということです。人は「楽しい」と感じる、信頼に満ちた自由な雰囲気の中で、最も多くに気付き学べるのです。

4　共に生きる力を育むための時間と目標を　＝長期的ビジョンと継続性が鍵！＝

中央教育審議会は、「生きる力」を「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よくよく問題を解決する能力。自らを律しつつ、他人と善く協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力」であるとしています。

「人権尊重」や、「貧困の削減」、「開発の問題」や「環境の保全」など様々な問題を抱える現在の社会で生きていくために必要な「共に生きる力」。相互に複雑に依存して存在する世界の中にあっては、世界の人々とのつながり無しでは生きていけません。今地域や国際社会が抱える課題は、私たち一人一人が主体的に解決していかなければならないのです。

私たちが国際理解教育を通して目指しているのは、よりよい人間関係を築く力、コミュニケーションの力、問題意識を高め社会と自分とのつながりの発見し、課題を共に解決していく力、といった「共に生きる力」を一人ひとりが手に入れること。

知識を身につけるだけの教育ではなく、価値観を育て、態度や行動する力を育てる教育ですから、１度だけの教育機会でそのような力を育てることは不可能です。「世界中の人々が人として尊重された生き方ができる、環境と人権の守られた社会を作ること。そしてそのために活動する主体を育てる」という長期的ビジョンを持ち、継続的に取り組むことが必要です。

このようなねらいを持った国際理解教育・開発教育が、学校教育の中で系統立ててカリキュラムに組み込めればよいのですが、それができなくても、機会を見つけてビジョンを持って継続的に続ければ、国際理解教育はきっとよい変化をもたらしてくれるでしょう。

国際理解教育はもう１度成果の欄を見直してください。こんな変化があるとよいと思いませんか。「生きる力」を育てれば、「学ぶ力」も育つのです。

5　すぐに使える道具よりいつまでも役立つノウハウを　＝共に学び続けましょう＝

理論だけではなく，手法とともに提供される幅の広い教育内容を含んでいるのが参加型国際理解教育。概念を理解し、参加する力、参加する態度を育むための「目的」「伝える内容」「手法」の３つが合わさったすぐれた方法論です。

アンケート結果では、国際理解教育を現場で進める時に求めるリソースには、「すぐに使える物を」という答が多かったのですが、すぐに使えるお手軽な道具としての参加型ではなく、永続的に使える手法や技術を教師自身が身につけることで、多様な概念理解や多様なテーマへの応用が効くというメリットがあります。そして、そのノウハウを見につけることは難しいことではありません。また、一度ノウハウを身につければ、学校教育のさばざま名場面で生かすこともそれほど難しくはないのです。教科学習の中でももちろん生かすことができ、授業の幅も広がります。

そのノウハウを身につける機会は今やたくさんあります。研修の機会はそこここにあるのです。国際理解教育を推進している団体が行っている研修は年間を通してあります。

また、国際理解教育・参加型学習を手伝ってくれる多様なリソースを持った団体が地域にたくさんあります。まずはどんどん試してみてください。外部講師を招くこともできます。彼らは、豊かな経験や知識と一緒に、参加型の手法などのノウハウも一緒に提供してくれます。政府機関や、民間の機関、NGO や NPO、情報提供や講師派遣などを助けてくれる団体は増えています。

まずは自分が体験してみる！体験したことが教室でも使える！それが参加型の良いところでもあります。授業が変われば生徒が変わる！

人を啓き、社会を開き、未来を築くために、おとなこそが共に学び続けましょう。

■ 第９回　愛知県における国際理解教育・開発教育ニーズ調査研究会　議事録

◆日時：平成１６年３月８日（月）午後６時～８時３０分

◆場所：ＮＩＥＤ・国際理解教育センター事務所

◆参加者：（委員）荻原、久世、田中、栗木、里村、野田、濱田、村山、山中＜敬称略＞

（事務局）礒貝、藤原、川合

◆配布資料：

(0)レジュメ（議事次第）

(1)ニーズ調査報告書のとりまとめについて

(2)ニーズ調査報告書本編部分

◆議事の経過と結果の概要

1　本日のねらい確認

・最終的な報告書全体像の確認

・提言部分、リソース紹介部分の最終確認、必要に応じて検討・とりまとめ

・今後の研究会についての確認

2　報告書全体像の説明と確認

・報告書の全体像について川合より説明した。

＜意見＞

・開発教育・国際理解教育→国際理解教育・開発教育に統一する

・Ⅶ．リソースは、問い合わせ先も載せる

・載せる団体として、研究会に関わったメンバーの所属団体についてのみリソースを載せる

3　Ⅳ．提言とアクションプラン部分の最終意見交換

◇全回の研究会で決定したボリュームよりかなり要約した短いものとして座長案が提出された。

・このまとめでよいと考える

・提言５の内容の「「生きる力」を育み「自ら学ぶ力」が育つことを上位目標」の部分がわかりにくい

→「「生きる力」を育み「自ら学ぶ力」が育つことを目標とし」とする。

・「その成果を共有するための評価の指標作りを提案します」が飛躍しすぎているのでは？

→「その成果をみんなで共有していくことを提案します。」

・「その成果を共有するための評価の指標作り」をアクションプランに付け加えたい

→　「国際理解教育・開発教育の成果を積極的に共有し、情報発信します。」を加える。

・提言のページは、一つの提言に対して１頁を使う。現在提言内容自体は３分の１頁。後の部分をどう使うか？

(1)図を加える

(2)文章のボリュームを増やす

(3)アンケート結果を添える　○

(4)このまま

→アンケート結果を載せる

・提言１：各教育のイメージ

・提言２：成果の抜粋を載せる、

・提言３：参加型学習の割合

・提言４：国際理解教育・開発教育の実践は、地域の協力を得て行われているケースが多いの裏付け

・提言５：評価が行われているか、課題

・アクションプランの３番目は誰がやるのか？

→研究会メンバーが行う意思があればＪＩＣＡが支援する用意がある

→協力隊ＯＢ・ＯＧを活かしたプログラムづくり

・アクションプランの１番目：「年次報告します」→「情報発信します」

４　その他

・研究会委員の所属団体をリソースとして紹介

・名簿の掲載内容

・今後の研究会について

→本日が研究会最終回であるが、次年度への継続提案

以 上